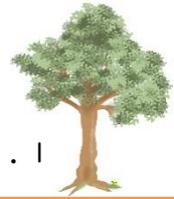




豊小だより

2019.11.1



家庭・地域と共に教育活動を充実させる学校づくりを



上記のタイトルは、6月5日付けの豊小だよりでご報告した「スクールプラン」に掲げた重点目標の一つです。目標達成に向け、本校では地域の学習素材・人材を活用したり、地域行事へのボランティア参加を推進したりするなど、地域の方々と接する機会を通して、地域に愛着と誇りをもたせる取組を進めています。また、明倫中学校区教育の一環としても、子供たちの学びが学校だけに閉じることなく、地域行事や公共機関・施設における催し物に参加することで、学びを広げ、子供たちの興味・関心の芽を育てるきっかけとなるよう、積極的に参加を呼びかけています。

◆地域ふれあい日記

その取組の一つとして、職員室前廊下の「みのりギャラリー」に、地域に出て体験したことを書いた「地域ふれあい日記」を掲示しています。夏休み中に書いた日記を他学年の子供たちにも見てもらっています。保護者の皆様には、お子様の参加などにご協力いただきありがとうございました。



◆ふるさとみのり祭り

10月27日(日)に開かれた「ふるさとみのり祭り」では、教育振興会や各種団体の皆様による模擬店出店やアトラクション、クラブ活動の作品や夏休みの宿題で描いた「みのりの宝」の絵の入賞作品の展示がありました。当日、27名の5・6年生が模擬店での販売や呼び込み、共同募金のお手伝いなどのボランティア活動を行いました。午前中は雨がひどくて大変な中、お客さんをお呼び込むポスターを書いたり、大きな声で宣伝をしたりと、祭りを盛り上げていました。地域の一員として、地域に貢献する姿が頼もしく思えました。以下は、ボランティア活動に参加した子供たちと保護者の皆さんの感想です。



6年 K.K: 私は焼き鳥とジュースの販売をしました。焼き鳥コーナーでは、袋を広げておいて素早く販売できるように工夫しました。ジュース販売では、より速く丁寧に栓を抜くのが大変だったけれど、少しずつ慣れてできるようになりました。

【お家の人から】雨が降って寒い時もあったけれど、常に元気に楽しそうに販売していました。ご苦労様でした。中学生になっても地域のために手伝いを続けてね。お母さんも続けます。



6年 I.I: 私は焼き鳥と飲み物の販売をしました。飲み物では小さい子がよく来たので、腰を落として何がほしいかをゆっくり聞くことができました。また、買っていただいたときには「ありがとうございます」と会釈をしながら言い、感謝の気持ちを言葉と行動で表すことができました。

【お家の人から】相手を思いやりの行動は、お客様へきっと届いているでしょうね。楽しい1日だったと思えたことが何よりです。



5年 B.R: おろしそばの販売・接客の係になりました。僕は宣伝をしました。9時頃にもものすごいゲリラ豪雨になりました。その間、お客さんは全く来ませんでした。「この雨がずっと続くのかなあ」と思っていたら徐々に晴れていって快晴になりました。僕の宣伝もあってか、たくさんのお客さんが来て2時には完売しました。

【お家の人から】たくさん宣伝して歩いていましたね。お客さんのお皿を片付けたり、蕎麦を運んだりと多くのお手伝いをしていて、また一つ成長したなあと思いました。



◆まちづくりビジョン・ワークショップ参加者募集中！

(11月17日(日) 午前10時～12時 豊公民館にて開催)

すでに、チラシでお知らせしたとおり、今年豊地区では、地区の現状や課題を見直し、今後のまちづくりの目標となる将来像「まちづくりビジョン」を作成しています。そのために、住民の皆さんで豊地区の未来や夢について話し合うワークショップを、1月までに3回開催することになりました。

そこで、本校では、子供たちが生活科や総合的な学習の時間で地域について学習したこと、考えたことを新聞やポスター、動画などで発表し、ワークショップ参加者の皆さんにビジョンを考える手立てとして活用してもらおうことにしました。理由は、2年生の生活科で町探検をするときにお手伝いに来ていただいた保護者の皆さんから「豊地区にこんな所があったなんて知らなかった」「子供たちといっしょに学べてよかった」と言う感想をお聞きしたことにあります。子供たちが学んだことを大人の方々に知ってもらうことで、地域の魅力や課題について考えるヒントになると考えました。また、豊地区の大人の方が自分たちの学習したことに目を向け、話し合っている姿を見ることは、自分たちが地区に役立っている、貢献しているという自己存在感・自己肯定感を得ることができる貴重な機会となると思ったからです。

第1回ワークショップでは、4年生と5年生の発表があります。発表内容は次のとおりです。

学年	総合的な学習の時間で学んでいること	ワークショップでの発表内容
4年	「やさしい町みのり～やさしさとどけ隊」 高齢者理解と支援の方法を学んでいます。	いちごディサービス訪問での調査結果をまとめた新聞を掲示
5年	「知ろう 守ろう 生かそうみのりの環境」 狐川を中心とした豊地区の環境調査・保全活動を行っています。	狐川の水質調査の結果を発表している動画を放映
全学年		「地域ふれあい日記」(夏休み・みのり祭)を掲示

4年：イチゴディサービス訪問



5年：狐川水質調査



*2回目以降も、上記以外の学年の発表があります。

ワークショップでは、グループに分かれて、豊地区のよいところ、よくないところ、自慢できること、なおしたいところなど、豊地区の魅力や特色、現状と課題についてみんなで話し合い、考えます。豊地区にお住まいの小学生以上の方なら、どなたでも参加できます。子供たちを連れて参加してみませんか。大人の方だけでも構いません。

子供たちが将来の地域の担い手となるために、学校も地域の方と一緒に取り組んでいきたいと強く思っています。学校や地域の思いをご理解いただき、ぜひ公民館に足をお運びください。参加申込は、豊公民館へ電話でお申し込みください。(TEL：34-0344)



◆読書月間の取組へのご協力を！

11月は、読書月間です。脳科学者の茂木健一郎さんも「本は“脳の栄養素！”読書が子どもの心を豊かにする」とおっしゃっています。「本を読むことは、人と出会い、経験を重ねるようなもの。読むほどにいろいろな考え方や生き方を学び、人の気持ちが分かるようになったり、苦しみを乗り越えるヒントをもらったりする。もちろん言葉や知識も蓄えられるから、それらが脳の栄養素となり、いわゆる地頭も良くなる」そうです。(「小学生の保護者のかたへ 子どもが読書好きになるヒントBOOK」/朝の読書推進協議会 から抜粋)

全国学力・学習状況調査の結果から、本校では不読者(本を読まない者)の割合が高く、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館に行く習慣が身に付いている子供が少ないことが分かっています。読書習慣は小学生のうちに身に付けておきたい「力」です。本や文章を読むことに抵抗があると、なかなか情報を収集したり、活用したりする力を身に付けることが難しくなります。



そこで、読書月間中に親子読書に取り組めます。親子で同じ本を読んで感想を交流します。各学級でワークシートを持ち帰りますので、子供たちと一緒に取り組むください。読書習慣定着のために、ぜひご協力をお願いします。ワークシートは、学級や図書室前の掲示板に掲示する予定です。